

学生ゴルフ人口拡大へ連携協定 県ゴルフ協会と岡山理科大が締結

岡山県ゴルフ協会と岡山理科大（岡山市北区理大町）は7日、
学生がゴルフに接する機会を増やすための包括連携協定を結んだ。
協会は競技人口の拡大、大学はゴルフを通して学生に社会人としての
マナーを身に付けてもらうといった効果を狙う。

協定では、大学のゴルフ講義の際、協会が練習場の提供や指導者の
派遣などを担う。

大学は2019年度から、講義を現在の2クラスから5クラスに増やし、
最終講義では本コースでの実践を計画している。

学生はコース上でのマナーや振る舞いを学んだり、競技会の運営を補助したりすることで、
社会で役立つスキルの習得を期待できるという。

同協会は競技者の減少を防ぐため、若者への働き掛けを強化しており、協定を結ぶのは初めて。

同大であった調印式で、貝畑雅二会長は「品格や教養を備えた若いゴルファーが増えるきっかけにしたい」、
柳沢康信学長は「紳士のスポーツと言われるゴルフは、学生の能力向上に確実に役立つ」と話した。



包括協定を結び、握手を交わす
岡山理科大の柳沢学長（左）と
県ゴルフ協会の貝畑会長

2019.2.8付 山陽新聞より



プロツアースポーツも

用具の提供をはじめ

様々なかたちで

この取り組みに

協賛しています！